



## 甲佐の将来を担う子どもたちの新たな学びがはじまっています

これから到来する、人工知能（AI）などの技術革新が一層進展した社会では、私たちの暮らしや働き方が大きく変化すると予想されています。今後10～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性があり、子どもたちの多くは将来、今はまだ存在していない職業に就くとも言われます。

国は、令和の学びのスタンダードとして「GIGAスクール構想」を掲げ、子どもたちが新たな社会を生き抜くために必要な力を育てようとしています。コロナ禍で前倒しとなったこの構想で、本町の学校教育がどのように変わっていくのか。その現場取材しました。

### ■ GIGAスクール構想って？

文部科学省が掲げるGIGAスクール構想は、1人1台の端末と学校内における高速大容量の通信ネットワークの整備を一体的に行い、従来の教育と組み合わせることで、新たな時代を生きる子どもたちのために「個別最適化され、創造性を育む教育」を実現させることを目的としています。

GIGAとは、「Global and Innovation Gateway for All」の略で、「全ての人にグローバルで革新的な入口を」という意味が込められています。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、全国的に大幅に前倒しして整備が進められています。

本町では、昨年度末に整備が完了し、本年度から町内全ての小中学校で、その活用が始まっています。

### ■ 1人1台のタブレット端末で広がる学び

1人1台に端末が整備されたことで、さまざまな学びが可能になりました。ここでは、タブレット端末でどんなことができるのかご紹介します。

#### ① AIドリル教材の活用

一人一人の習熟の程度に応じ、最適化された難易・量の問題集がそれぞれに提示されます。一斉型の授業では難しかった、理解に差

1\_タブレット端末を手に笑顔を見せる甲佐小の子どもたち 2\_総合学習の一環で町水道管理センターを見学しながらタブレット端末で施設の様子を記録する龍野小児童たち 3\_自分の考えをキーボード入力する甲佐中生徒たち 4\_白旗小学校の職員室では児童が動画撮影した宿題「音読練習」の提出・採点・返却がタブレット端末で行われていた

## こんな端末を使っています！



◆ キーボードとカバーの一体型は中学生や先生たちが使用

### ■ タブレット端末

Apple社のiPad（第7世代）と外付けキーボードを一体で導入。新学習指導要領の「キーボード入力」などの学習にも対応。有害サイトの閲覧制限などセキュリティ対策も安心。

### ■ 通信ネットワーク

NTTドコモが提供するLTE回線を利用。WiFiなどの無線LANに比べて接続が安定しており、家庭や校舎外での利用も可能。

### ■ 搭載アプリ



ロイロノート・スクール

自分たちの考えたことをカードを使って簡単に共有できるアプリ。さまざまな授業で活用。先生と児童生徒間の連絡などにも使用。



eライブラリ

学習を補完するデジタルコンテンツ。収録されたドリル問題の習熟度などを確認することで、先生が個人のつまづきを把握できる。



がある子どもたち一人一人への細やかな対応が可能です。

### ② 調べ学習

インターネット検索サイトを活用した情報収集だけでなく、野外活動などを写真や動画として記録可能。情報活用能力の習得につながります。

### ③ 資料作成

収集した情報を整理し、アプリを使った資料づくりを通して論理的思考を身に付けます。

### ④ 協働学習

従来の授業では、手を挙げた子どもだけが意見を発表していたため、自ら表現できない子どももいました。これからの教育では、子ども同士が互いの考えをリアルタイムで共有でき、双方向の意見交換が活発になると期待されます。

### ⑤ 家庭学習

タブレット端末を持ち帰り、自宅での学習やオンライン授業の受講ができ、より深い学びにつながります。また、災害などによる臨時休校時でも、学びの機会が保障されます。

### ■ 教員の働き方改革

GIGAスクール構想は、先生たちの働き方改革にもつながります。子どもたちの健康管理や成績管理などをICT（情報通信技術）で効率化することで、業務負担の軽減が図られ、子どもたちとの時間の確保につながります。

## ICTを適切・安全に使いこなすために

7月2日（金）乙女小学校で親子タブレット講習会が開催されました。この講習会は、ICT（情報通信技術）の活用が進む学校教育について知ってもらおうと同校（金崎健次校長）が企画。ICT支援員の五嶋恵梨さんが、授業でのタブレット端末の活用方法や情報モラル、家庭での利用時の注意点などを説明し、保護者は子どもたちと一緒に操作しながら新しい学びについて考えました。



一方、情報が簡単に手に入る社会だからこそ、そこに潜む危険に気を付ける必要があります。これからの教育では、情報モラルやネットリテラシーといった、情報を正しく活用するための考え方や能力も求められています。子どもたちが情報を適切・安全に利用できるように導くためには、学校だけでなく家庭での保護者の皆さんの協力が必要不可欠です。ご家庭で利用する時のルール作りをお願いします。  
児童の皆さんも、インターネットに関するトラブルには十分気を付けて、楽しい夏休みを過ごしてくださいね。

先月開催した親子タブレット講習会は、保護者の皆さんに学校教育の今を知ってもらい、お子さんと共有してほしいとの思いで企画しました。ICT支援員の五嶋さんを講師に迎え、授業で活用するアプリなどを説明していただきました。保護者の中には、初めてタブレットに触れる方もおられたかもしれませんが、子どもたちは授業の中でこれらを使いこなしており、その吸収力には目を見張るものがあります。

### ■親子でICTを考える機会を

1人1台のタブレット端末整備により、ICTを活用した教育が本格的に始まって約4カ月がたちました。本校でも、試行錯誤しながら授業での活用を進めており、さまざまな学びが広がっています。

### 親子で考える 新たな情報教育



乙女小学校  
金崎 健次 校長



1\_ 電子黒板とデジタル教材を使った授業では、子どもたちの考えを共有できる  
2\_ 外付けキーボードを使って入力作業などの基本操作を学ぶ子どもたち

ICTによって授業の幅が広がり、子どもたちもタブレット端末が導入されてから、より意欲的に授業を受けています。  
算数の立体図形問題では、今まで平面でしか見ることでできなかったものが、タブレット端末で立体を回転しながら見ることができると、苦手な子どももイメージしやすく学習ができています。音楽や体育の授業で

■ ICTの可能性を子どもたちの学びにつなげるために



甲佐小学校 ICT主任  
太田 和幸 先生

は、演奏や競技の様子を動画撮影しながら、友だち同士で共有することで、意見交換が行われ、新たな気付きや発見につながっています。  
また、一人一人にタブレット端末が行き渡ったことで、子どもたちの健康管理や成績管理といった日常業務の効率化も進みつつあります。これまでの紙による提出では必要だった集計作業が、タブレット端末を通すことで不要になりました。ICTが持つ可能性の大きさを実感するところです。  
町教育委員会をはじめとした関係者の尽力によって、新たな教育環境が整いました。これらが可能にする多様な学びを子どもたちの成長につなげるためには、私たち教員のICT活用指導力の向上も急務です。模索が続く毎日ですが、変化を前向きに受け止め、新たな時代を生きる子どもたちと共に成長していければと思います。

「教育×ICT」の最前線

## ICT導入で変わるべき事と変わってはいけない事



蔵田 勇治 教育長

コロナ禍により急速に押し進められた1人1台のタブレット端末整備をはじめとする教育へのICTの導入は、教育現場を大きく変えています。新たな教育を効果的なものにするため、ICTを活用した授業方法に対応する先生たちの努力が続いていますし、家庭学習でタブレット端末を駆使して子どもたちが幅広い学びの機会を得るためには、保護者の皆さんのサポートも必要です。

しかし、一番大切なことは、ICTは子どもたちの学びをサポートする手段の1つに過ぎない、ということです。社会を生き抜くために必要な「人間力」を培っていくためには、これまでと同様に、先生や友だちとのコミュニケーションが重要です。読み書きなどの基礎的な学びは変わりません。今後、大学入試や資格試験で情報端末を使った試験方式(Computer Based Testing)の採用が見込まれるなど、子どもたちに求められる能力も変化していますが、教育の本質は不変です。

本町では、これまでの学校教育とICTを活用した学びを融合させた新たな学びを創造しながら、甲佐の子どもたち1人1人が自分らしく輝ける教育づくりを目指しています。